資料３

特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議について

１　合同会議について

鳥獣保護管理法への改正に基づき、既存の特定鳥獣保護管理計画に替わり策定する第２種特定鳥獣管理計画（屋久島地域ヤクシカ管理計画（仮称））を、世界遺産地域における個体数管理等を含む全島を対象とした統合的なヤクシカ管理計画として策定するため、特定鳥獣保護管理検討委員会とヤクシカワーキンググループの合同会議により検討するため平成２６年度から開催している。

２　検討委員について

特定鳥獣保護管理検討委員会

【学識経験者】

船越　公威	鹿児島国際大学教授
矢部　恒明	森林総研九州支所グループ長

【自然保護団体】

手塚　賢至	屋久島生物多様性保全協議会会長

【関係機関】

笠井　林	上屋久猟友会長
小脇　清保	屋久町猟友会長
西橋　豊啓	種子屋久農業協同組合屋久島本部常務
牧　実寛	屋久島森林組合代表理事組合長

ヤクシカ･ワーキンググループ

【科学委員会委員】５名

矢原　徹一	九州大学大学院理学研究院教授(座長)
小泉　透	(独)森林総合研究所　研究コーディネータ
荒田　洋一	樹木医（屋久島在住）
湯本　貴和	京都大学霊長類研究所教授（副座長）
松田　裕之	横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

【特別委員】４名

手塚　賢至	ヤクタネゴヨウ調査隊代表　（重複）
鈴木　正嗣	岐阜大学応用生物科学部教授
濱崎　伸一郎	(株)野生動物保護管理事務所関西分室長
杉浦　秀樹	京都大学野生動物研究センター准教授

合計　１５名

３　経緯等

平成22年　7月28日	平成22年度第１回屋久島世界遺産地域科学委員会において，ヤクシカ･ワーキンググループの設置について承認
～	（年2回ワーキンググループ開催）
平成26年　2月28日	第８回ヤクシカ・ワーキンググループ開催（鹿児島市）
平成26年10月25日	第1回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議開催（屋久島町）
平成27年　2月25日	第2回特定鳥獣保護管理検討委員会及び屋久島世界遺産地域科学委員会ヤクシカ・ワーキンググループ合同会議開催（鹿児島市）

４　平成26年度第2回合同会議の検討概要

⑴生息数の確認について

ヤクシカの生息状況については、局所的な減少はあるが、全体的な変化は認められない。

環境省が平成２６年度から糞塊法による調査を実施し、生息数を推定したところであるが、単年だけのデータで推定数を判断するのは難しいことから平成２７年度の結果と比較して評価する必要があり、当面は糞粒法と糞塊法の両方の調査を併用して行うこと。

⑵被害の把握について

シカによる森林被害面積は減少しているが、新植地が減少したからであり、剥皮被害は相変わらず見られる。

農作物の被害は増加傾向で、原因はシカばかりではないと考えるが、広域基幹林道南部線及び栗生、中間地区で個体が増加傾向である。

被害状況については、経年変化を見たいため、細かい被害状況の資料が必要である。

⑶ヤクシカの捕獲について

平成２６年度の捕獲状況について、官民界での捕獲が増加したこと、地域別では宮之浦林道の捕獲数が多くなっている。全体的な捕獲効率としては変化は無いと判断される。

シカの個体数調整の基本として、数ではなく雌ジカを優先的に捕獲することが原則である。

捕獲に当たっては、国際的な動物福祉の観点を考慮して行くと、くくりわなだけではなく安全確保を検討したうえで、銃による捕獲を進めていくべきである。

また、地域別に捕獲方法を詰めていくことが必要である。

⑷第２種特定鳥獣管理計画について

管理計画を立てるにあたっての問題点として、今後の森林施業とシカの管理を併せて考えることが必要である。

世界遺産地域以外の低標高地の国有照葉樹林に絶滅危惧種が残っている地域があり、その保存についても行政機関と連携しながら現地を確認し計画を立てることが必要である。

ヤクシカの管理目的として、管理の面と併せて有効利用という形を図ることも必要であることから、出口対策として有効利用を掲げることや利用と保全の調和を取り組んで行く中で「ユネスコエコパーク」と関連づけることも必要ではないか。

計画捕獲については、捕獲目標を設定する必要があるが、設定するためには生息密度を把握する必要があり、生息調査方法の検討が必要である。また、捕獲目標を設定して捕獲を実施した後の検証には、複数年要する。

捕獲の実施地域についても、捕りやすさの面と絶滅危惧種への対策とその効果の両面で重点的に捕獲する必要がある地域を判断していく必要がある。

⑸生態系管理目標

管理目標を高木に対する影響について設定すると森林の更新のタイムスパンが長いため長期間の課題となる。

目標設定にあたっては、屋久島固有の低木への影響と被度自体への評価がポイントとなるが、被度自体への評価となると昆虫への影響にも関連するためその専門家にも協力を得る必要がある。また、絶滅危惧種に焦点を当てるとリスク評価ができるので、リスクの高い種名を列記し個別に設定することも必要である。

５　平成２７年度第1回合同会議の検討事項等

（１）ヤクシカの生息状況等について

（２）第2種特定鳥獣管理計画について

①　屋久島地域ヤクシカ管理計画（仮称）（案）について

②　生態系管理目標（素案）の設定について

（３）屋久島生態系維持回復事業計画の更新について